



この内水ハザードマップは、下水道や排水施設の処理能力を超える大雨によって浸水が発生した場合に、浸水が想定される区域、浸水する深さ、避難所などの情報をまとめたものです。

このマップを活用し、ご自宅などで浸水するおそれがないか、避難所などを確認し、日頃から水害に備えましょう。

御坊市 産業建設部 都市建設課 〒644-8686 和歌山県御坊市南350番地2 TEL:0738-23-5512

わが家の防災メモ

災害は時間を問わず起こります。日中・夜間の家族の居場所を想定して、各自の避難先を考慮しておきましょう。また、安全な避難ルートも複数考えておきましょう。

名前	学校・勤務先	電話番号	避難先	メモ

非常持出品や非常備蓄品の準備

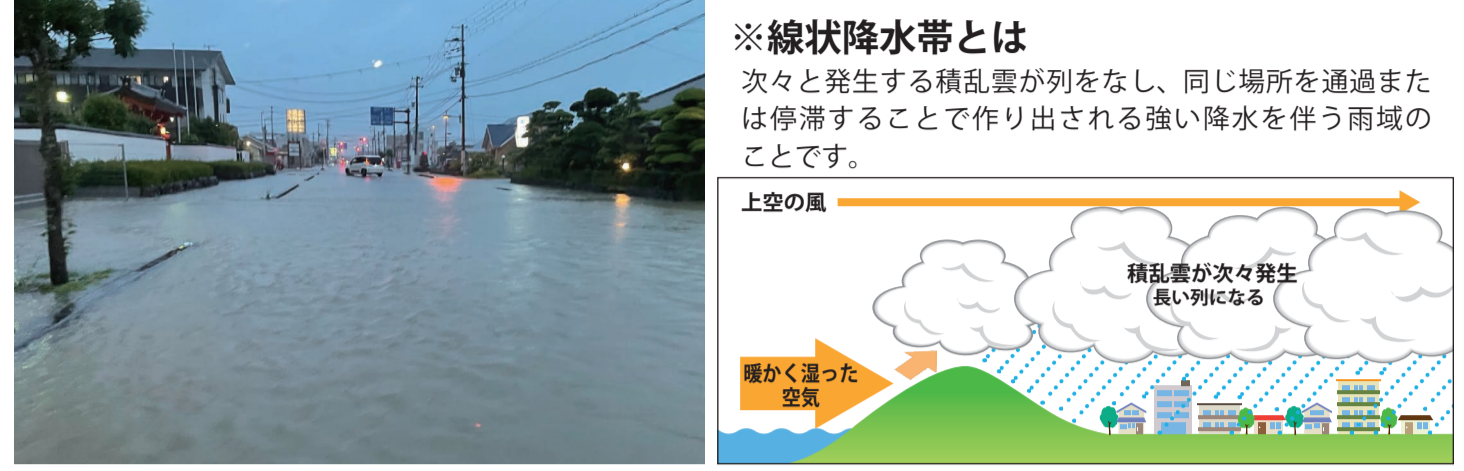
非常持出品	
食料 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 非常食 (火を通さず食べられるもの) <input type="checkbox"/> 粉ミルク等、哺乳瓶 (赤ちゃんがいる場合)	貴重品 <input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 免許証など
衣類など <input type="checkbox"/> 衣類(厚手のものと薄いもの) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 雨具	日用品 <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 簡易食器(割り箸、紙皿) <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク
救急・安全対策用品 <input type="checkbox"/> 持病薬 <input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、風邪薬) <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒液 <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、絆創膏 <input type="checkbox"/> 地図(ハザードマップ) <input type="checkbox"/> 歯磨きセット	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 万能ナイフ <input type="checkbox"/> ティッシュ、濡れティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 電池、充電器

非常備蓄品(最低3日、推奨1週間)	ローリングストック法
<input type="checkbox"/> 日頃の買い置き 保存性のよい食料や水を買置きし、消費したら買い足す(ローリングストック法) <input type="checkbox"/> 3日以上のお食料 缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、お菓子、調味料、スープなど <input type="checkbox"/> 飲料水 大人1人当たり1日 2〜3リットル カセットコンロ・ガスボンベなど <input type="checkbox"/> 缶切り <input type="checkbox"/> ラップ	ローリングストック法とは、賞味期限を考えると古いものから消費し、消費した分を買足することで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

災害を知る

御坊市で起きた主な水害

和歌山県では、梅雨末期の前線活動や台風による大雨で大きな災害が発生しています。1953年の紀州大水害や2011年の紀伊半島大水害が発生、近年では2023年6月には台風2号の接近に伴い梅雨前線が活性化し、和歌山県で線状降水帯*が観測され、御坊市では住宅の浸水被害、冠水による道路の通行止めなど多大な影響を及ぼしました。



内水氾濫と外水氾濫

内水氾濫	外水氾濫
内水氾濫とは、雨の量が雨水路などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、マンホールや側溝などから水があふれて、浸水することです。	外水氾濫とは、大雨により河川などの水位が高くなることで堤防を超えて水があふれたり、堤防が決壊し浸水することです。

内水氾濫で想定される災害

<p>大雨が降り、側溝にゴミなどが詰まり、うまく排水されず、道路に水がたまりやすくなります。</p>	<p>アンダーパスなど道路が低くなっている所が冠水します。</p>	<p>内水氾濫時の人的被害の大半は、避難途中の側溝や水路、マンホールへの落下によるものです。</p>
--	-----------------------------------	--

避難を考える

避難を考える

大雨が降り続いた場合、内水氾濫から外水氾濫へ被害が拡大するおそれがあります。リスクを知るには被害の拡大も考慮し、自分の居場所の危険度を知り、避難をすることが必要です。避難の方法はあなたの居場所によって異なります。

- 家屋倒壊等氾濫想定区域内、浸水深が3m以上の区域(早期立退き避難が必要な区域)の場合は、立退き避難が必要です。
- 浸水想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。ただし、想定される浸水の深さより高い場所で、水が引くまで我慢でき、水、食料などの備えが十分であれば屋内で安全確保することも可能です。

自宅がどの範囲に入っているか確認し、どのように避難するか家族と話合ってみましょう。

家屋倒壊等氾濫想定区域	2階が浸水	1階が浸水	1階床下が浸水
木造・非木造にかかわらず早期に立退き避難、非木造は垂直避難も可	2階浸水は早期に立退き避難、3階以上避難も可 3階以上の建物	1階浸水は2階以上に避難 2階浸水は3階以上に避難 避難も可	1階以上に避難

浸水深 5.0m, 3.0m, 0.5m

河岸侵食、氾濫流

避難行動

*家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食): 洪水時に家屋が流失・倒壊するおそれがある範囲を示したもので、河岸侵食を要因とするもの。
 *家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流): 洪水時に家屋が流失・倒壊するおそれがある範囲を示したもので、洪水氾濫を要因とするもの。

避難先の選定

立退き避難には、市が指定している避難所以外に安全であれば親戚・知人宅や、宿泊施設なども検討しましょう。

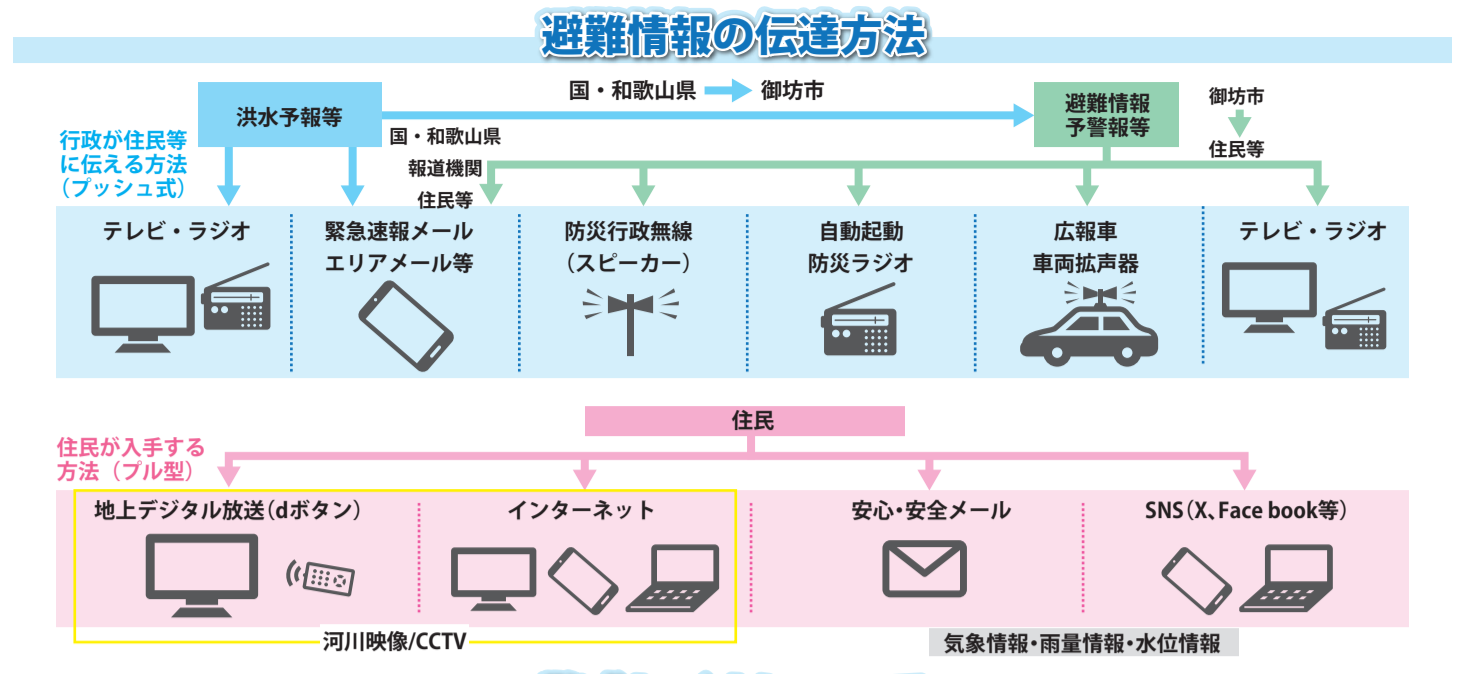
市が指定した避難場所/避難所	安全な親戚・知人宅	安全なホテル・旅館

市では、災害発生時または災害等が発生するおそれがあるとき、ホテル所有者の協力により、ホテルに避難する御坊市民の宿泊費用を2分の1割引することを定めた協定を結んでいます。詳しくは市のホームページ「風水害に備えて」をご確認ください。

もし、逃げ遅れたら

無理に外へ避難するよりも、垂直避難を。自宅周辺が浸水している場合は、自宅の2階以上や、近くの頑丈な建物の高層階へ避難することが重要です。	斜面から離れた部屋や、2階以上の部屋に移動して、自分の身を守る！
--	----------------------------------

情報を収集する



警戒レベルについて

警戒レベルとは、災害発生の危険度を5段階で示す情報で、住民がとるべき行動を明確にするものです。災害時に適切な避難行動がとれるよう普段から警戒レベルについて確認しておきましょう。

警戒レベル	状況	とるべき行動	避難情報等
警戒レベル 5	災害の発生、または切迫	直ちに安全確保	緊急安全確保(市が発令)
警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難!			
警戒レベル 4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(市が発令)
警戒レベル 3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※	高齢者等避難(市が発令)
警戒レベル 2	気象状況悪化	避難行動等の確認	大雨・洪水注意報(気象庁が発表)
警戒レベル 1	今後、気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁が発表)

※高齢者等以外の方も危険を感じたら自主的に避難してください。

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上〜20未満	20以上〜30未満	30以上〜50未満	50以上〜80未満	80以上
雨の強さ(予想用語)	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘をひっくり返す	傘は全く役に立たなくなる	息苦しくなるような圧迫感がある
雨の降り方	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある

避難を考える

避難の心得

<p>必要に応じて、住所、氏名、連絡先などを記載したものを持ちましょう。特に高齢者や子どもは、事前に用意しましょう。</p>	<p>避難の際、外出中の家族がいる場合「どこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。</p>	<p>単独での避難行動は危険が伴うため2人以上で避難しましょう。</p>
--	--	--------------------------------------

<p>浸水時には、ふたのはずれたマンホールや側溝など危険な場所があります。移動する場合には、長い棒を杖代わりにする等、足元の安全を確認しましょう。</p>	<p>市内には道路の下等に立体交差部(アンダーパス)があり、大雨時には冠水するおそれがあるため、通行は避けましょう。</p>	<p>土砂災害警戒区域等では、大雨による土砂災害への警戒が必要です。集中豪雨等により、外が危険な状況である場合は、自宅上階や崖の反対側の部屋など、より安全な場所に避難しましょう。</p>
---	--	---

コラム 他のハザードマップも確認しておきましょう

平常時から他のハザードマップも確認して災害時に備えましょう。

右の二次元コードを読み取りアクセスできます。
<https://www.city.gobo.lg.jp/curasi/bosai/hazardmap/index.html>

洪水・土砂災害ハザードマップ	地震ハザードマップ	津波防災マップ	ため池ハザードマップ

情報を収集する

大雨に役立つ情報

防災行政無線放送 電話やメール、LINE、市のホームページで放送内容を確認できます。 電話番号: 0738-22-9990 メール: 右の二次元コードを読み取り、空メール(件名・本文不要)を送信してください。 mailto:bousai.gobocity@raiden3.ktaiwork.jp	防災わかやま 防災わかやまメール 気象情報、河川水位情報、雨量情報、避難指示などの情報を携帯電話やパソコンに電子メールでお知らせするサービスです。 利用登録は、右の二次元コードを読み取り「登録の流れについて」をご確認ください。 http://mail.bousai-wakayama.jp/doc/index.html
御坊市公式LINE LINE公式アカウントで、災害時に避難所開設情報や道路冠水情報等を配信しています。登録は、右の二次元コードを読み取るか、LINEで「御坊市」と検索してください。	「和歌山県防災ナビ」アプリ 安全に避難するための避難場所を簡単に検索できます。クリックすると、アプリダウンロードページに移動します。
防災情報の入手(気象庁) 発表中の防災情報、警報・注意報、台風情報など確認できます。	防災わかやま X(Twitter) 災害時に避難情報や、甚大な被害が発生する災害が予想される場合の注意喚起、新たな防災に関する取り組みを発信します。
御坊市ホームページ 御坊市から、くらし、福祉、観光、産業、市政に至るまで様々な情報を発信しております。	地上デジタル放送 dボタンを押して防災情報にアクセスできます。

NTT災害用伝言ダイヤル(171)

地震時など災害発生時は、電話がつながりにくい状況が数日間続きます。災害用伝言ダイヤル(171)は、災害時限定で音声情報を録音・再生できるサービスです。

- ※1回に録音できるのは30秒まで
- ※伝言の保存期間は48時間

災害用伝言板

災害時に携帯電話会社の公式メニューや専用アプリからアクセスし、伝言を登録することで、家族に安否情報を知らせることができます。震度6弱以上の地震発生時に使用できません。

※震度5強以下その他の災害時は、電話の通信状況によります。

家族間で事前に決めておいた避難場所に互いを信じて避難することができる「避難カード」を防災対策課で配布していますので、ぜひご利用ください。

災害に備える

浸水を防ぐための「土のう」等の活用

土のうは、市で貸し出しており、御坊市役所、財部会館に「土のうステーション」を設置しています。必要な方は危機管理課までお問い合わせください。

雨が降り出す前に土のうや水のうを設置することが大切です。特に土のうは水分を含むと重くなりますので、早めの対策で浸水を防ぎましょう。

旧教育委員会の土のうステーション 財部会館の土のうステーション

土のうを設置することで、家屋への浸水を防ぐことができます。

家庭でできる浸水対策

ゴミ袋による簡易水のう 40L程度のみ袋を二重にして中に半分程度の水を入れます。段ボール箱に入れると強度が増します。	プランターとレジャーシート 水を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。
--	---

自主防災組織について

救助活動や消火活動を各個人で行おうとしても、個人の力には限界があります。自主防災組織の目的は、災害発生時に被害の拡大を防ぎ、付近の人たちを避難誘導するなどといった確かな初期活動にあります。消防などの防災関係機関が現場に到着して活動を開始するまでの間、初期活動を地域で組織的に行えば、被害は最小限に抑えることができます。

普段から避難訓練などの自主防災活動に参加し、地域で災害に備えましょう。

